



国立ハンセン病資料館 2014年度春季企画展

不自由者棟の暮らし

ハンセン病療養所の現在

2014年4月26日[土] — 7月27日[日]



国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum

ハンセン病療養所では入所者の家は一般寮（健康舎）と不自由者棟（センター）に分かれています。その内、不自由者棟では後遺症の悪化や合併症、高齢化などに伴って介護を必要とする入所者が暮らしています。少しでも職員の手を借りればあとは自分で生活ができる人から、食事・排泄などすべてにおいて介助を必要としている人まで不自由度はさまざまです。そして、職員は、日常生活の援助を行い、レクリエーション等を通じて単調になりがちな暮らしに刺激を与えようと働いています。不自由者棟とは、どんなに不自由になっても懸命に生きている人が暮らし、それを支える人々が働き、そのための環境を備えている場所なのです。

かつてハンセン病療養所では不自由舎（現在の不自由者棟）の看護と介護を患者が行っていました。それを職員に切り替えるため、1964年の六・五闘争など入所者たちは長年にわたる運動を行いました。その成果として、介護の職員化、雑居だった部屋の個室化、設備の改善などを勝ちとってきました。一見非常に整った環境のように見える今日の不自由者棟ですが、こうなるまでには入所者の大きな努力が払われてきたのです。

ハンセン病療養所の入所者の平均年齢は80歳を越え、今後ますます多くの方が不自由者棟へ移動すると考えられます。入所者にとって最期を迎える場になりつつあり、その重要性はよりいっそう増していくでしょう。

不自由者棟とその入居者について知ることは、歴史を踏まえて現在のハンセン病回復者や療養所への認識を深め、さらには将来への展望を考えるきっかけになるはずです。本展では六・五闘争から50年目にあたる今年、あまり知られていない不自由者棟の中の様子をお伝えします。皆様のご来館をお待ちしています。



新センターのコーラス発表 多磨全生園



職員との語らい 星塚敬愛園

会期中付帯事業を行います。

詳細は下記HPでご報告します。

<http://www.hansen-dis.jp>



会 場 **国立ハンセン病資料館2階 企画展示室**
開館時間 **9:30~16:30** (入館は16:00まで)
休 館 日 **月曜日** (祝日の場合は次の日)・館内整理日
入 館 料 **無 料**

国立ハンセン病資料館
National Hansen's Disease Museum

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981

交通案内

- 西武池袋線清瀬駅南口より、久米川駅行きまたは所沢駅東口行きバスで約10分
- 西武新宿線久米川駅北口より、清瀬駅南口行きバスで約20分
いずれもバス停留所「ハンセン病資料館」で下車すぐ
- JR武蔵野線新秋津駅・西武池袋線秋津駅南口より徒歩約20分
- 関越自動車道所沢ICより約30分(駐車場あり)